

流域の水環境改善

- 都市内河川の環境悪化と汚濁物質への対応 -

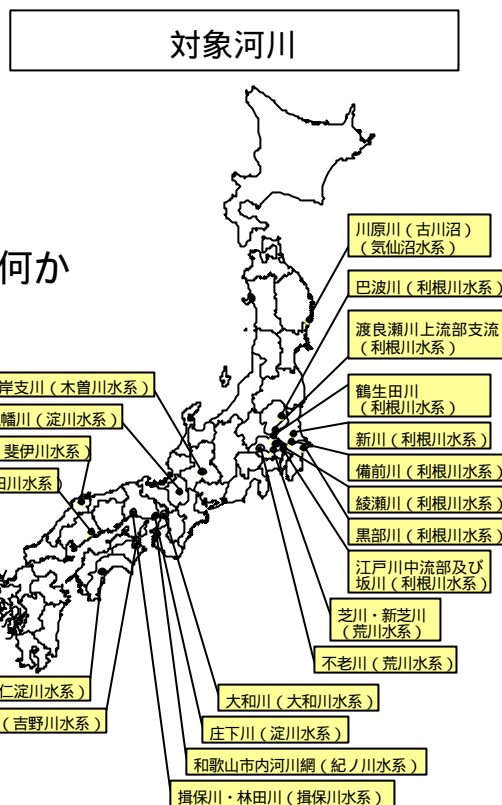
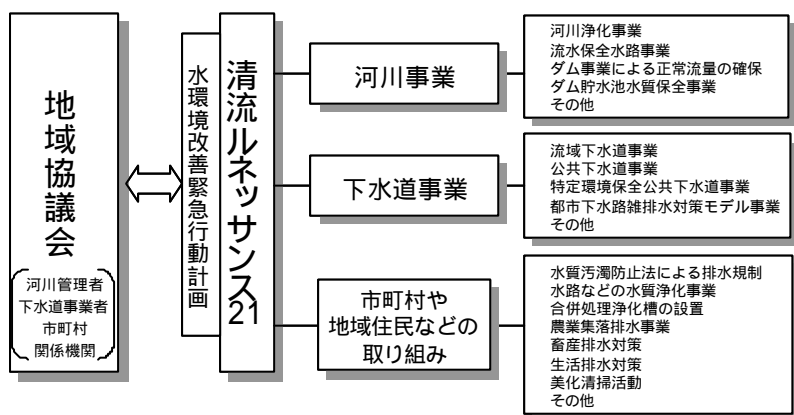
施策の効果等

対象：清流ルネッサンス21【平成5年度創設】
(平成5年～平成12年)

河川管理者、下水道管理者、その他の関係機関が一体となって行う水環境改善の取り組み

視点：清流ルネッサンス21の目標を達成しているか

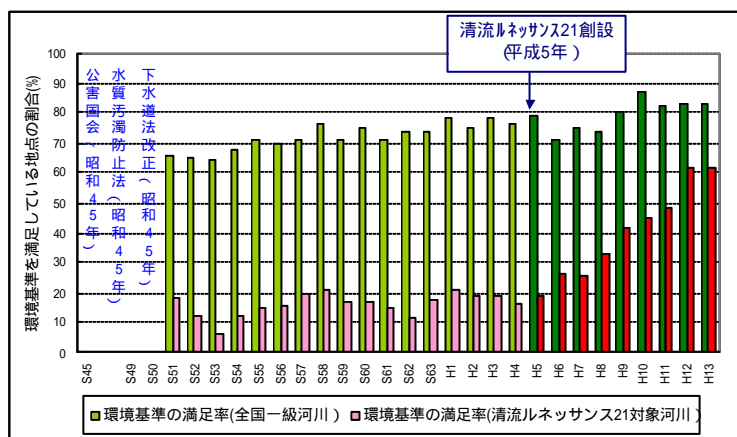
未達成の河川における要因、改善すべき課題は何か



清流ルネッサンス21の主な効果

清流ルネッサンスの取り組みにより、都市内河川でも環境基準の満足度は顕著に高まった。

清流ルネッサンス21の各河川で、
目標を達成した河川 : 8
未達成だが水質改善が進んだ河川 : 12
水質改善が進まなかった河川 : 1



主な課題

清流ルネッサンス21は、法的位置付けがされていない任意の取り組みであること。また、生活に密着した具体的な目標設定としなかったため、各主体ごとに取り組みに対する熱意の差があった。

今日的な観点からは流量も質とともに水環境の重要な一要素であると考えられるが、目標流量の設定がなされていないか、または不十分であった。

清流ルネッサンス21の各施策の組み合わせが最も効率的であったかについては、客観的な評価基準がないため評価が困難。

河川浄化施設は、負荷削減に寄与しているものの、負荷削減量当たりの施設の建設、維持管理について下水道と比較すると割高

今後の対応方針

地方公共団体や住民の熱意に頼る従来の方法では限界があるため、施策の確実な実行のため制度のあり方を検討
地域毎の住民が望む生活に密着した具体的な現象を直接目標とするよう積極的に取り組んでいく

水質だけでなく流量、さらには流域における水循環をも視野に入れた望ましい水環境を達成する計画制度の創設について検討

水環境の改善に向け、下水道事業と河川事業との組み合わせ以外に、立案段階から合併処理浄化槽等の整備も含めた効率的な施策の組み合わせも検討
従来の施策の枠組みにとらわれず、より効率的な施策の組み合わせが可能となるよう検討

浄化施設の計画、浄化手法、維持管理について、新技術の開発及び施設内の汚泥を下水処理場で処理するなどの直接連携によるコスト縮減
流域からの窒素、リン及び微量化学物質等の削減効果の調査、検討

海域等下流の閉鎖性水域の水質改善について、海岸や港湾管理者との連携
清流ルネッサンスで得られた成果を他水系の水質改善にも反映